

シラバスの書き方、使い方

—シラバス執筆ガイドの有効な利用法—

河合塾 グループ
KEIアドバンス

成田秀夫（大正大学教授 総合学修支援機構DAC副機構長）

自己紹介

■ 成田秀夫 h_narita@meil.tais.ac.jp

■ 現職：大正大学教授 総合学習支援機構DAC副機構長

■ 教養教育・初年次教育・キャリア教育を一体化した「新教養教育」

■ チューター100名を活用した「チュートリアル教育」

■ 前職：河合塾教育研究開発本部 開発研究職／現代文講師

■ 経済産業省「社会人基礎力」事務局

■ 初年次教育学会理事

■ 話す、聴く、読む、考える、書く、発表するスキルの育成

■ 大学生のジェネリックスキル測定「PROG」開発

研修の目的・目標

【目的】

授業の中で取り組むきっかけを作る。

【目標】

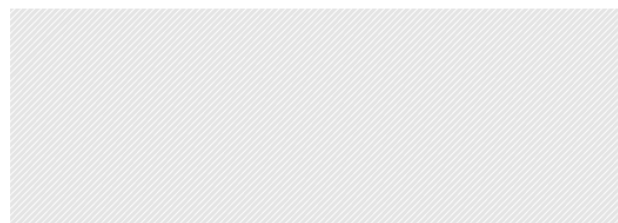
- DP、CPと連動したシラバスの書き方が理解できる。
- 身につく能力と取り入れた授業設計のポイントが理解できる。
- 2020年度のシラバス作成に向けた課題を抽出できる。

タイム・テーブル

次回	内容	
10:30~	1.オリエンテーション	• 目的、目標の確認
10:35~	2.報告	• 2020年度シラバスの変更点
10:40~	3.レクチャー	• 要点整理
11:00~	4.ワークショップ	• シラバス作成のポイントと課題 • 発表と質疑応答
11:40~12:00	5.リフレクション	• シラバスを有効に活用するために

シラバス執筆ガイド

大学の現状に即して解説



明治学院大学

シラバス執筆ガイド

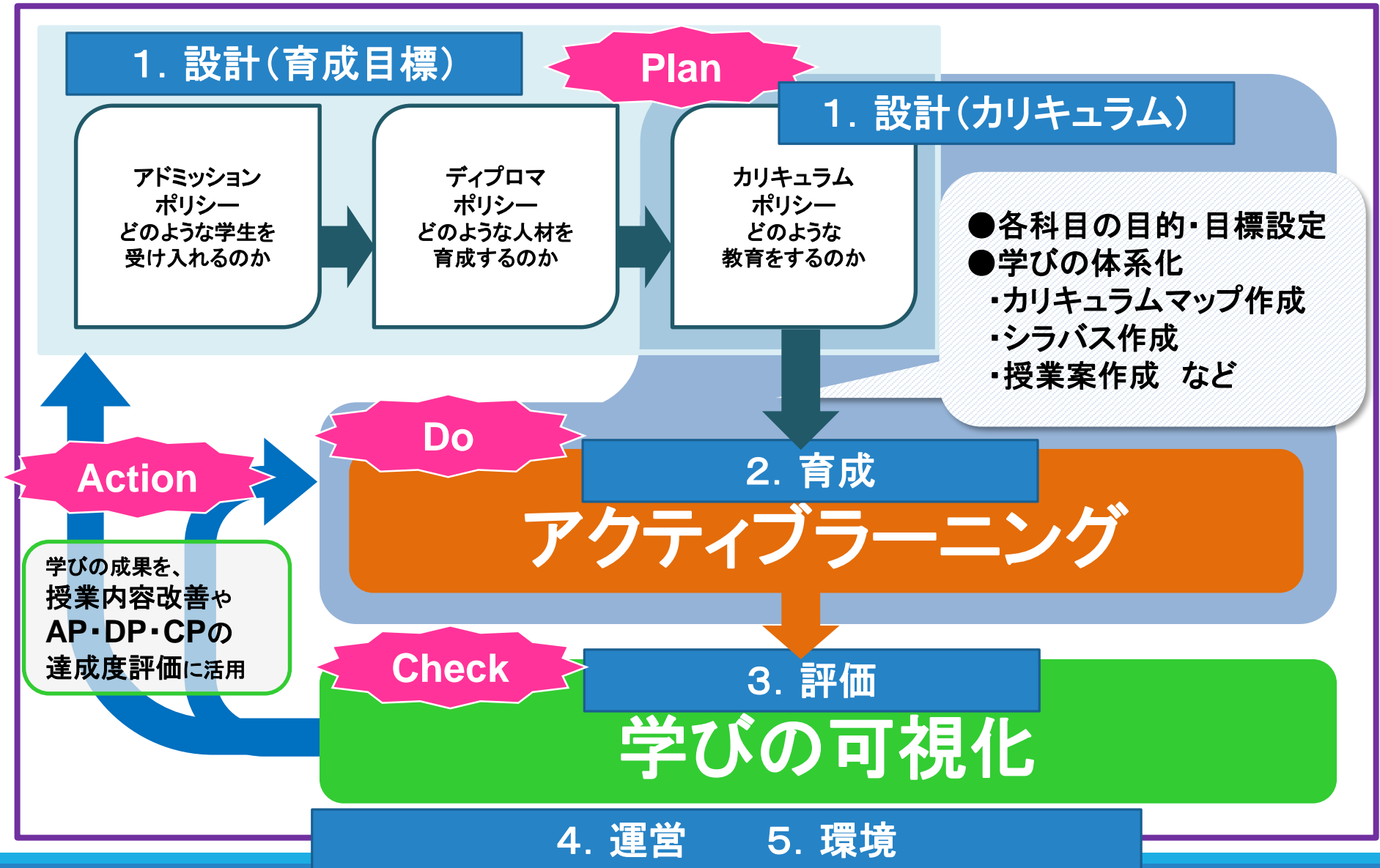
Syllabus Creation Guidelines



MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

- シラバスの意義
- 作成のプロセス
- 具体例
- FAQ

大学教育改革の5つの課題



シラバスの定義と役割

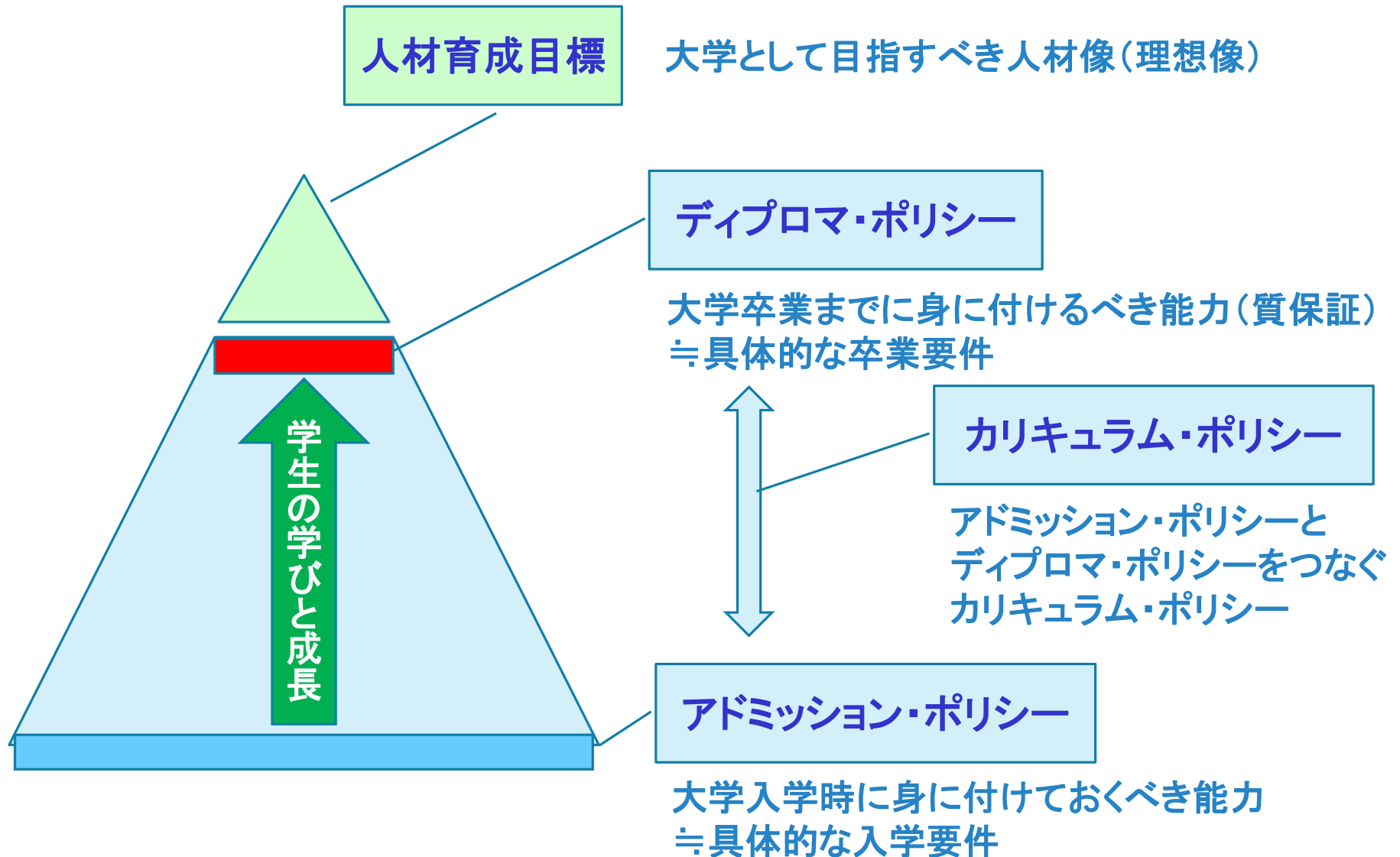
シラバスは一般に次のように定義されています。

【シラバスの定義】

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習などについての具体的な指示、教科書、参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習などを進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になると共に、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」（2008）

3つのポリシーの関係



教育目標、DP、CPとシラバスの連動

【建学の精神】

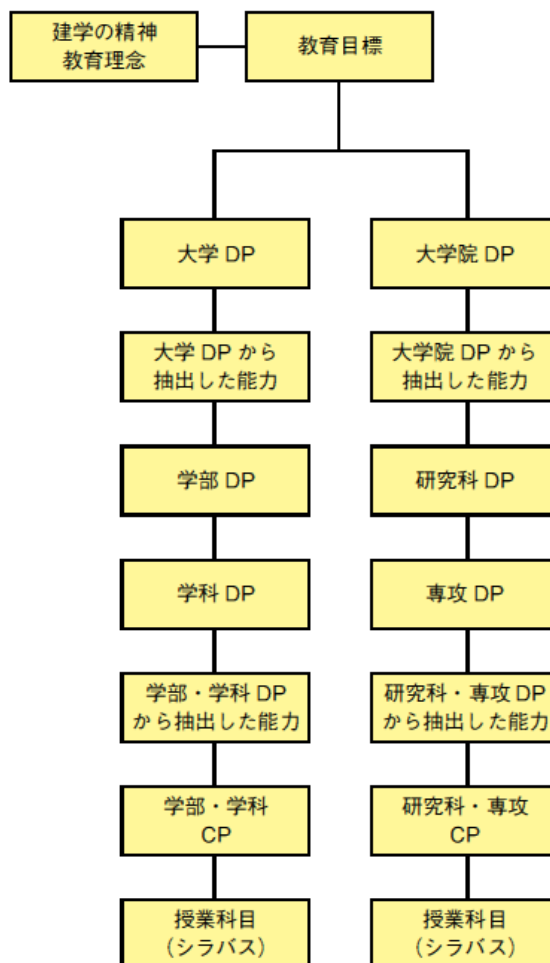
キリスト教による人格教育

【教育理念】

“Do for Others (他者への貢献)”

【教育目標】

1. 他者を理解する力を身につける。
2. 分析力と構想力を身につける。
3. コミュニケーション力を身につける。
4. キャリアをデザインする力を身につける。
5. 共生社会の担い手となる力を身につける。



本学で定める身につく能力

(1) 知識・理解

- ・ 歴史、文化、社会、自然、健康に関する幅広い教養
- ・ 専門分野に関する基本的知識と体系的理解

(2) 汎用的技能

- ・ 知識を獲得するための技能・応用能力
- ・ 知識を活用するための技能・応用能力

(3) 態度・志向性

- ・ 主体的行動力
- ・ 社会的責任感・倫理観
- ・ 他者との協調力・共生力

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・ 知識・技能・態度などを総合的に活用する課題発見力
- ・ 知識・技能・態度などを総合的に活用する問題解決力

資質・能力を育てる

従来の発想

①まず教える内容を考えることから出発



②教えた内容をアセスメント・測定

資質・能力を育てる

逆向き設計の発想

① **ゴール**（教育目標：どんな能力を身につけさせるか）

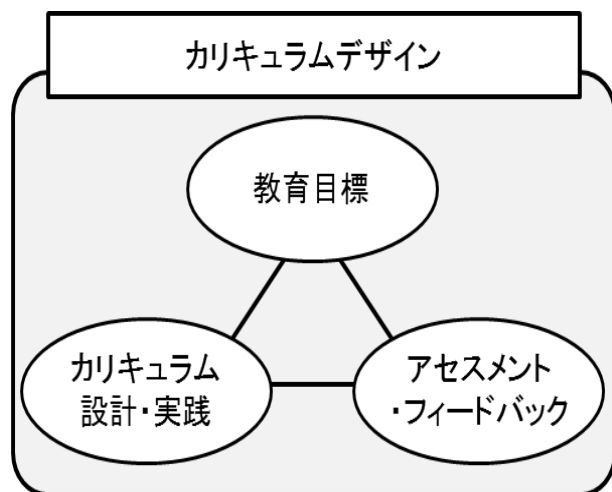


② **アセスメント**（評価方法を考える）



③ **カリキュラム設計・実践**（何をどう教えるか）

資質・能力を育てる



- ① 「教育目標を評価規準として子どもたちの学力を評価する教育評価の立場」
- ② 相対評価に代わるものとして登場し、到達度評価の特質を継承しつつ、それを乗り越え、基礎学力と発展的学力の育成を目指す

設計なくして評価なし！

ディプロマ・ポリシーを実現する授業

AL型授業の類型化

- ▶ 習得タイプ: 知識・技能の習得
- ▶ 活用タイプ: 知識を活用した課題解決
- ▶ 探究タイプ: 自ら選んだ問題解決
- ▶ 体験タイプ: 協働性・主体性の育成

教育目標を実現する授業

教育目標	1. 他者を理解する力を身につける。
DP	(1)知識・理解 歴史、文化、社会、自然、健康に関する幅広い教養
下位因子	自己や社会に対する関心
具体的行動例	社会的なことに関心を持っている
授業例	<ul style="list-style-type: none">➤ 新聞記事の活用 授業の最初に、1名3分で自分が関心をもった記事について発表する。 記事の紹介だけでなく、関心をもった理由も述べる。 何度も発表することで、考えをまとめて人前で発表できる習慣を付ける。➤ 授業で扱った内容に関する情報収集 授業を聞いているだけでなく、授業で習った内容について情報や関連知識を調べて発表する。 調べた内容をもとにグループでディスカッションし、理解を深める。

活用

探究

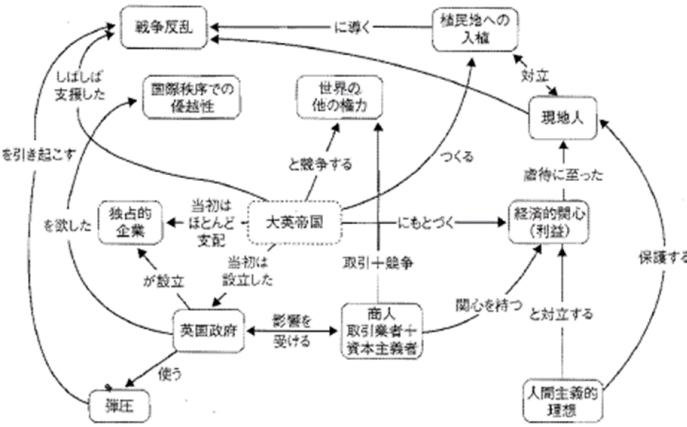
教育目標を実現する授業

教育目標	2. 分析力と構想力を身につける
身につく能力	(1)知識・理解 専門分野に関する基本的知識と体系的理解
具体的行動例	基本的な専門知識を習得している
授業例	<p>➤ 専門知識を講義で解説しテストで確認しながら授業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none">①知識の説明:ひとつのまとまりを説明する②確認テスト:どこで躓いたかを確認する③補足説明:躓いた点について解説する <p>①→②→③を繰り返す</p> <ul style="list-style-type: none">④リフレクション <p>➤ シンク=ペア=シェア (Think Pair Share)</p> <ul style="list-style-type: none">① クラス全体に質問を与える→② 一人で考える→③ ペアで順番に考えを述べる→④ クラス全体で話し合う

習得



教育目標を実現する授業

教育目標	2. 分析力と構想力を身につける
身につく能力	(2)汎用的技能 知識を獲得するための技能・応用能力
具体的行動例	専門知識の関係を体系的に理解している
授業例 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin: 5px;">習得</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; margin: 5px;">活用</div> </div>	<p>➤ コンセプト・マップ: 学習した内容を体系的に確認する</p>  <p>15回を講義で埋め尽くすのではなく、学んだ内容を統合して理解する時間を設ける。 学習内容をユニット化しておくことで、ユニット毎にまとめの時間が取れる。 グループで協力してまとめることも可。</p> <p>➤ 小レポートの作成: 学習した内容をまとめて小レポートを作成する</p>

教育目標を実現する授業

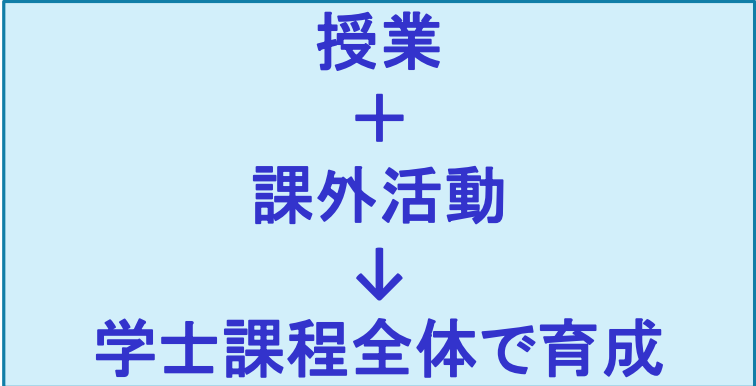
教育目標	2. 分析力と構想力を身につける
身につく能力	総合的な学習経験と創造的思考力 知識・技能・態度などを総合的に活用する課題発見力
具体的行動例	専門知識を活用して現象を説明できる
授業例 <div data-bbox="99 721 294 829" style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">習得</div> <div data-bbox="99 932 294 1041" style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">活用</div>	<p>➤ PBLチュートリアル: グループで与えられた現象を仮説を立てながら説明する。 実社会での場면을切り取ったシナリオを学習のきっかけとして、そこに潜む問題を見だし、少人数グループでの討論により問題を解決していく過程を通して知識・技能・態度を学んでいくもの</p> <div data-bbox="1239 654 1916 1153" style="text-align: center;"> <p>PBLチュートリアルの流れ</p> </div> <p>➤ 期末レポート: 学期で学んだことを活用して課題に答える。</p>

教育目標を実現する授業

教育目標	5. 共生社会の担い手となる力を身につける。
身につく能力	(3)態度・志向性 他者との協調力・共生力
具体的行動例	相手の話を傾聴することができる
授業例	<p>➤ ペア・ワーク／ディスカッション</p> <p>相手の話を「傾聴」する。→受容・共感</p> <p>自分の意見ばかり述べず、相手が話すことに配慮する。</p> <p>➤ 部活／課外授業</p> <p>チームや仲間と安心して意見を言える雰囲気を作る。</p> <p>ミーティングや話し合いを円滑に行う。</p>

探究

体験



シラバス作成のポイント・課題

1. 「身につく能力」をシラバスにどのように記載するか？

ポイント	課題

シラバス作成のポイント・課題

2. 「身につく能力」を獲得する授業をどのように設計するか？

ポイント	課題

シラバス作成のポイント・課題

3. シラバス作成全般について？

ポイント	課題

リフレクション

- ① 今回の研修の内容について、気づいたこと、大切だと思ったことは何ですか？

リフレクション

② 今日の学びや気づきを次にどのように活かしたいですか？

③ その他、感じ考えたこと

参考文献

■2017年

『インタラクティブ・ティーチング～アクティブ・ラーニングを促す授業づくり～』(河合出版)

栗田佳代子、日本教育研究イノベーションセンター 編著

■2015年

『新しい教育評価入門～人を育てる評価のために～』(有斐閣コンパクト) 西岡加奈恵、田中耕治 編

■2008年

『教育評価』(岩波テキストブックス) 田中耕治